

IPSC2016 報告書

備前花奈子 上智大学外国語学部ドイツ語学科 3年

私は、日本英語交流連盟のお力添えの下、2016年5月9日から13日にかけての5日間、イギリスのロンドンで行われた **International Public Speaking Competition** (以後 **IPSC**) に参加させていただきました。12日と13日に行われたスピーチ大会以外にも、ワークショップ、ロンドン観光、各国の代表者との交流の時間があり、大変充実したプログラムでした。私にとって、この5日間の経験は思い出に残るものとなりました。

中でも1番印象に残っていることは、各国の代表者のスピーチの仕方についてでした。私は、中学1年生のときから、いくつかの日本のスピーチコンテストに出場してきました。そのコンテストでは、出場者は必ず自分のスピーチを暗記し、それを発表していました。私自身、そのスタイルが当たり前となっており、今回の **IPSC** でもそのように準備を進めてきました。しかし、大会に参加すると、各国の代表者はメモに自分が話したいことを箇条書きし、そのメモを見ながらスピーチをしていました。このようなスタイルでスピーチをするためには、高いスピーキング能力が必要になります。アドリブやジョークを交えたスピーチは、聴衆を引きつけ、魅力的なスピーチになります。また、日本のスピーチコンテストでは演題があるのが主流のように感じますが、**IPSC** では演題がなく、自由に動きながらスピーチをすることができました。自由に動きながらスピーチをすることで、さらに聴衆がスピーカーの話に耳を傾けているように感じました。今回、この大会に参加したことで自分のスピーチの仕方について改めて考えさせられました。同時に、もっとスピーチが上手くなりたいと強く思いました。

今回の大会には、世界各国から代表者が集まり、5日間を共に過ごしました。この大会は、16歳から20歳の学生のための大会ですが、驚いたことに、ほとんどの代表が高校生だったのです。しかし、皆自国の政治や文化について大変興味を持っており、様々なことを教えてもらいました。特に、5日間のプログラムの中で大英博物館へ行った際に、各々の出身国の展示物について詳しく説

明をしてくれました。彼らの姿を見ていると、他国の人に日本の歴史、文化、政治などについて詳しく説明できるように、もっとこれらに関心を持って、学んでいく必要があると痛感しました。スピーチコンテストの日本代表として今回の大会に参加させていただきましたが、それだけでなく、日本について他国の人に伝える役目も担っていたのだと感じました。

最後に、世界大会という二度と経験することができない素晴らしい舞台に立つ機会を与えて下さり、本番までスピーチのご指導をしていただきました、日本英語交流連盟 沼田会長、鈴木様に、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。この経験を生かして、今後もスピーチ活動をはじめ、さまざまなことに挑戦していきたいと思います。